
防災まちづくりのための3つの力

小林郁雄 KOBAYASHI, Ikuo <ikuo-ko@kcc.zaq.ne.jp>

まちづくり会社コー・プラン / CO-PLAN アドバイザ

神戸市灘区楠丘町 2-5-20 〒657-0024

T: 078-842-2311 F: 078-842-2203

神戸山手大学環境文化学科 教授

阪神大震災復興市民まちづくり支援ネットワーク 世話人

1. 阪神大震災で新たに生まれたもの

阪神・淡路大震災で多くのものがなくなったが、いくつか新たに生まれたものもある。なかでも「ふれあいセンター」、「コレクティブハウジング」、「まちづくり協議会」の三つは、阪神大震災復興において生まれ、後世に伝えるべき智慧（仕組み）である。

●仮設住宅地を支えた「ふれあいセンター」

→→密集市街地の安心安全のための地域拠点

●震災復興住宅に導入された「コレクティブハウジング（協同居住型集合住宅）」

→→高齢社会の住宅住環境に向けた協同居住

●市民主体の震災復興における「まちづくり協議会」

→→都市計画まちづくりの住民参画協働をめざす自律組織

2. まちづくり協議会システム / 常日頃からのまちづくり

市民活動社会の市民まちづくりにおける倫理的論理的な社会基盤は「合意形成」である。まちづくり協議会は、そうした合意形成のための、住民を主体とする集まり・機会・場（フラットなプラットフォーム）であり、住民を中心とした自律的で連帯した市民組織である。あるいは、あるべきである。

そうした背景を持つゆえに、震災後神戸市だけでも合計100のまちづくり協議会が、復興まちづくりに向けて、活動してきた。とりわけ、震災以前からまちづくり活動のあった地区では、震災直後から秩序だった将来を見据えた復興市民まちづくり活動が直ちに始められている。突然の緊急時には、常日頃の身に付いた活動がまことに重要な役割を果たすのである。

3. 防災まちづくりが必要とする三つの力

まちづくりとは、「地域における、市民による、自律的継続的な、環境改善運動」と私は定義している。すなわち「まちづくりとは運動である」。

それでは、都市の防災力とは何か？巨大地震に備えるための「力」とは何を必要とするのか？

阪神大震災からの復興まちづくりでわかったことは、「地域力・市民力・場所力」の3つの力が大規模災害に対し「うたれ」強い（減災）都市の基本であるということである。

●地域力←←まちづくり協議会（地域組織）

●市民力←←ボランティア・NPO（市民組織）

●場所力←←プラットフォームとネットワーク